

第二回 「紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会」会合 議事録

日時：令和6年7月19日金曜日 午前10時～11時8分

会場：オンライン

出席：鈴木基史、石田淳、宇山智彦、大芝亮、亀山康子、栗栖薫子、古城佳子、武田康裕、
竹中千春、都丸潤子、中西寛

配布資料

第二回分科会会合議題

資料1 公開シンポジウム「迷走する国際秩序と人道危機」の開催について（事務局
修正版暫定プログラム）

資料2 第26期日本学術会議政治学委員会各分科会の活動（令和6年度）

資料3 より良い役割発揮のための制度的条件(要約)（令和6年6月7日付日本学術会議
幹事会の政府方針への応答）

議事に先立ち、今回から参加の武田康裕委員の紹介と挨拶があった。

議題

1. 10月5日開催のシンポジウム「迷走する国際秩序と人道危機」について

資料1に基づき、鈴木委員長から、開催趣旨、プログラム、講演者としてご登壇の
キチマリ・コソボ共和国駐日大使と委員長との準備面談等について説明があった。大使か
らは、成果を形にしてはどうかとの提案もあった。委員長より、会場手配等について石田
委員のご尽力に感謝の言葉があった。

実施方法について検討を行い、以下の通りとなった。

- ・大使は英語でご講演、オンラインで一般公開も行うため、事前に送付いただく講演
スライドを画面表示、解説・各報告とラウンドテーブルは日本語で実施予定。
使用言語についてポスターにも記載し、キチマリ大使には、日本語報告部分の事前準
備スライドを google 翻訳してお渡しし、竹中委員のご協力により討論内容を英語で
ウィスパリングするなどの対応を行うことになった。
- ・司会進行役について、前半は鈴木委員長が担当、キチマリ大使の講演以降の司会は
石田委員が担当する。
- ・参加登録用 QR コードも含む宣伝用ポスター準備状況について石田委員から報告が
あり、鈴木委員長からは、周知予定の説明や、協力依頼があった。
- ・成果に応じて学術会議叢書への応募あるいは編著出版の形で検討を進めることに
なった。

2. 今年度の予算と今後の活動

鈴木委員長から、本分科会の今年度予算、今後の活動について説明があった。

予算については、会員任期の開始と会計年度のずれがあり、各分科会年間 11 万円程度の厳しい予算であり、参加者手当は 1 回分でほぼ消化されてしまう予定とのことであった。

今後、10 月シンポジウムの成果を出版することになれば、そのための活動が生じる。

もう一つの活動テーマである人道回廊については、鈴木委員長の方で満州からの帰還者について経路のデジタルマッピングなどの作業を進めている。来年が終戦 80 周年のため、満州からの帰還を題材に戦争の悲惨さを伝えることを、委員の協力を得て考えたい。

3. 政治学委員会の活動状況

資料 2 に基づき、鈴木委員長より政治学委員会の活動内容の紹介があった。

12 月には政治学委員会でサイエンスカフェを開催予定だが、人文社会系・理工系を問わず研究者を目指す学部生が減少していることを踏まえ、研究者育成も長期的課題としたい。

4. 日本学術会議の現況

資料 3 に基づき、鈴木委員長より、政府の法人化案と日本学術会議からの 5 要件の提示などについて説明があり、宇山委員からも補足説明があった。

5. その他

- ・ 10 月シンポジウム準備の細かな調整は本会合直後の登壇者打ち合わせで行う。
- ・ 次回は 11 月半ばの日本国際政治学会札幌大会にてハイブリッド形式にて開催予定で、今後日時調整を行う。

議事録作成者 都丸潤子